

第5章

『参加者の声アンケート』

とりまとめ

- (1) 参加者の声アンケートについて
- (2) アンケート回答状況
- (3) アンケート結果

第5章 『参加者の声アンケート』とりまとめ

(1) 参加者の声アンケートについて

本会議においては、時間の制約もあり、参加者の皆様方からのご意見を十分にお聞きすることができませんでした。事前の「コーディネータの声アンケート」でもコーディネータの皆様方にご意見を頂きましたが、本会議を経て今後のコーディネート活動がさらに活性化するために、「参加者の声アンケート」を参加者の皆様にお願ひしました。そこで出たご意見をまとめ、ここでご紹介します。

(2) アンケート回答状況

講師・パネラーを除く当日参加者の123名にアンケートをお配りし、31名の方から回答を頂きました(回答率25.2%)。そのうち、2名は「コーディネータ」以外の方でした。ご協力いただいた方々の所属機関の内訳は、支援機関：19名、大学・研究機関：4名、その他：8名となっています。ご協力ありがとうございました。

(3) アンケート結果

問1.あなたのコーディネータとしてのモットーは何ですか？

- ・ 人と会う。出会いを大切にする。
- ・ どこにでも足を運び、人と会い、物を見ること
- ・ お客様である大学の先生方及び中小企業の皆様に成功して喜んでいただけるような仲介をすること。相手から信頼されるよう良く話を聞き、良く動いてやること。
- ・ 相手方の話を良く聞いて、課題を把握すること。
- ・ 企業が、特に中小企業がハッピーになるための大学側の最大限の支援を行う。
- ・ 信用
- ・ 誠意・耳順
- ・ 信頼を得るために努力すること。
- ・ 信頼
- ・ スピーディーな対応。
- ・ スピード。最初の相談には対応可能か不可能かを1 - 2日で回答する。決してうやむやにしない。
- ・ 産学に目線を合わせたネットワーク(より密に、よりスピーディーに)
- ・ 立場をかえて(相手側の立場で)考える。
- ・ 事業家の立場に徹すること
- ・ ベンチャー事業家の立場になって考え行動する。
- ・ 信頼関係の構築と相手の目線で考え判断する。

- ・ 相談者の立場に立って対応する。
- ・ 相手の目線にたってお話しを伺い、対応策を練る
- ・ 地元根ざした専門家（会計士）
- ・ コーディネータから一步コンサルタントに接近した領域をカバーしたい。
- ・ いろいろな状況において、適切な情報を提供すること
- ・ 技術専門分野の高い見識と市場動向の適切な把握
- ・ 科学的な面から可能性が高い、正しそうだという方向で関わりたい。
- ・ 責任や業務の範囲を明確にしたうえで、痒いところに手の届く、仕事をする。
- ・ 本気でその向かう相手のためになんとかしてあげたいという熱意をもちつづけること。
- ・ 個々人の関係を大切にす。組織や仕掛けだけでは、人は動かない。
- ・ 広い視野と柔軟な思考を持つこと。
- ・ 私はJ A M B OのIM研修を現在受講中の者ですが、民間インキュベーション施設でベンチャー支援を担当しています。自分としてはベンチャーが好きで好きでたまらない人間であることを自負しております。IMとは企業ではなく、経営者を支援するのだと言われてはいますが、支援先を通して世の中に意義のあるものを生み出すお手伝いをしているのだと考えています。あまりコマーシャルベースや損得を考えるのではなく、支援先が喜ぶ顔を見たい、本当に感謝されたいという気持ちが私のモチベーションです。ちょっと格好つけすぎかもしれませんが・・・・。
- ・ 私はコーディネータではありませんのでモットーはありません。しかし、想像するにモットーとしなければならないのは経営感覚としばしばそれとトレードオフの関係にある人間関係のバランスをとることではないでしょうか。
- ・ コーディネータという立場ではないので、特にありません。

問2. コーディネータの資質獲得・能力向上に関してご意見があればご自由にお書きください。

- ・ 自分の専門知識は常に磨く
- ・ 自分の専門領域のレベルアップ及び、経営全般の浅くてもよいが、広範囲の知識の確保
- ・ 一つのスキルと広い知識
- ・ 幅広い知識（特に最近の情報）の習得
- ・ 専門外分野の学習（より広範な知識）
- ・ コーディネータには幅広い知識・能力を持っていた方がよりよい活動が出来ると思います。そのためには日常の行動や見聞の中から情報を収集するとともに、不足している能力向上のための行動が必要と思います。
- ・ 単なる調整、取り継ぎ役ではなく、広い技術知識（深くはないにしろ）を持って核心に触れて活動することが必要である。このために日々のコーディネート活動中に現れる未知の分野の知識を得るようにしている。
- ・ 広汎な技術力（浅くて良い）の醸成
- ・ 問1.に関連する、弛まぬ努力とアンテナ高く・広く情報入手
- ・ 常日頃から、情報の入手を行い、事務の繁雑業務を少なくできるよう努力する必要がある。
- ・ 世の中の大きな動向にいつも関心を持っていること
- ・ 技術面の知識も必要だが、その中で課題を適確に把握する能力をみがく必要がある。その際、出来

るだけ多くの人に会い、事例を聞くこと。

- ・ 多くの人に会う心掛け。
- ・ 良く人の意見を聞く事。
- ・ 聞き上手になる訓練。
- ・ 聞き上手を発展した取りまとめ力の育成
- ・ 多分に先天的なものがあります。後は、OJTしかないと思います。研修会等は有用です。
- ・ OJT 第一でやる必要があるといわれますがコーディネータの数の絶対的不足を考えますと、コーディネータ育成、資質獲得、能力向上のための教育プログラムが必要だと考えます。
- ・ 現在体系的なカリキュラムがないため、当方で試験的に11月から実施します。ぜひまとまった研修プログラムはどこかでつくっていただけるとありがたいです。
- ・ 向上対策として、技術工、中小企業診断工、計理士等の資格取得を義務付けるか、またはコーディネータをITコーディネータのように資格試験で与えるよう制度化する。
- ・ 自己責任と成果を明確にした上での実地研修。
- ・ 自分の知識、経験、ネットワークで足りない部分はこれらを如何に補強、増大させるかだと思います。一口にコーディネータと言ってもいろいろなタイプ(職種)のコーディネータが居られるのでそれらによって多少違うのかなとは思いますが。
- ・ 熱意
- ・ 資質は個人の天性の性格に負うところ大。社交性、明るさ、積極性、相手への思いやりがない人はいくら頑張ってもコーディネータには向いていない。
- ・ コーディネータに特に必要な資質・能力というものがあるのか、自分でもいまいちわかりません。人の世話をやくのが好き、好奇心が旺盛、簡単にはあきらめないなど、性格・心情的なものはあるかもしれません。このように言ってしまうと、コーディネータという仕事が泥臭いものに見えてきて不快に思われるかもしれませんが、実際に企業支援の場数を数多く踏むことで、経験則より資質・能力は積みあがるものと私は考えております。ベンチャー支援も公的な支援があまり成功しないのは、一番リスクの少ない人生を選んだ公務員の人たちが考えたこと、やっていることだからだと思います。支援される側と同じ目線、感覚で対応できなければ絶対信頼されないと思います。
- ・ 事業を成功に導くためには、相手企業との信頼関係が重要と思う。コーディネータは、その地域の実情・特性などを十分理解しておく必要がある。
- ・ 組織に関わったその時から、コーディネータとしての資質は形成される。
- ・ 様々な経験を積むこと。
- ・ 事業経験をすること。
- ・ 科学の現場と実業の現場を良く知る必要を感じる。
- ・ 産官学のシーズ、ニーズのテーマを公表し、そのテーマに関心を持つコーディネータがプレゼンテーションを行い、最適のコーディネータを選べるようにする。
- ・ コーディネータの資質は、技術的な知識以上に、技術をどのように他社(者)へ結び付けていくか、すなわちマッチングの能力が最も求められているものと考えます。

問3. コーディネータ連携の提案についてご意見があればご自由にお書きください。

地区単位（県～広域）のネットワークを構築し、それを核に緩やかな全国連携を

- ・ 地区（県又は地域）単位でのネットワークの構築（組織化）
- ・ お互いに立場が異なっているが目的は皆同じはず。まずは各地域（例えば「県北地域内連絡会議」での定例の連絡会議を設けて自由に発言出来る会とする。次のステップとして、県レベルがある。
- ・ 大学が期待されている地域への貢献を中心に、各県単位に各種コーディネータが配置されているので、まずその連携を密にし、それを核に、緩やかな全国的な連携に向う。私の所属する福島県では国立、公立大学、都市エリア、市町村等の各機関所属のコーディネータのネットワーク（福島産学官連携ネットワーク）を発足させています。

コーディネータ同士の「Face to Face」の交流会が必要

- ・ 交流の場の設置
- ・ 広く情報、意見の交換ができるような形のコーディネータ連携があればよい。緩い形の連携でよいのではないかと。
- ・ コーディネータの連携も基本は人と人とのつながりであり、お互いの信頼関係を築くチャンス機会を拡大し継続することかと思えます。
- ・ コーディネータ同士のヨコの連携を図れる場があるとよいと思えます。
- ・ 交流会、研修会で人のつながりが持てる様にして欲しい。
- ・ コーディネータ連携は大変喜ばしいことと考えます。今後の運営方案など伺いたいと思っています。
- ・ 研究開発型 NPO の可能性を考えてみるべきではないでしょうか。

ネットを活用したコーディネータ同士の意見交換の場が必要

- ・ 一個人では限度がありどのようなネットワークを構築するか、あるいはフランクに意見交換のできる場を作る必要があると思えます。
- ・ 生の情報が即、得られるよう人的ネットワークの構築ができる環境の整備ができれば良いと思う。
- ・ ネット構築
- ・ 横の連携は有用です。自由に利用できるインターネット用のメールアドレスは有用です。

コーディネータ同士の連携のためには、各コーディネータの得意分野などの情報が必要

- ・ コーディネータ同士のネットワーク作りが重要と思う。そのための交流会、得意スキルの公開（DB化など）が望まれる。
- ・ 産業や業種別にコーディネータのマップのようなものがあればいいと思えます。（この分野の技術はどのコーディネータに相談したら良い、あるいは、どのコーディネータがどの分野でどのような会社（マッチング可能な会社）を抱えている、等が一目で分かるもの）

他地域の事例が知りたい

- ・ そうは言っても場数を踏むことは時間を要するので、一人前のコーディネータが養成されるまでは大変です。そこであまり多くはないと思われるコーディネータの成功事例をみんなで共有することで、個々のコーディネータの能力向上につながるような連携であればいいと思えます。単にネットワークを拡大するための連携では長続きしないと思えます。
- ・ あるに越したことはないが、必須とは思えない。コーディネータ個人の大学・企業・行政などとの人脈の方が実務上は、はるかに重要。今回のような会議は、よそでどのようなことが実行されているのかを知る上で、参考にはなる。

様々な立場の人との連携も必要

- ・ できる限り様々な立場の人（研究、産業（民間）、学問、NPO、行政）に声をかけていただきたい。
- ・ 資源調達に困っているベンチャー企業がたくさんある。銀行等の金融機関や、証券、VCにも積極的に参加してもらいたい。
- ・ 連携は実践を通して行われると認識。但し、サロンの企画も必要と考える。コーディネータとコンサルタントなどの交流なども必要と思う。
- ・ ネットワークは重要だが、丸投げのバケツリレーでは非効果的だし、結局、優れたコーディネータに負担が集中してしまう。各自がそれなりの守備範囲を持つべきだと思う。
- ・ （問1）に立ち返って、欲しいと思う。連携が可能であるのは、個人的なインタレストや、関心の深さが優先される。
- ・ 各種コーディネータの情報交換会を定期的を開く。

コーディネータ個人だけでなく、チーム単位の活動も必要

- ・ コーディネーターとしての成功は実業で実現できて初めてだと思う。内容の理解がある程度、現場の理解もある程度では不安だ。複数専門家のチーム編成という考え方は。
- ・ 2,3人で良いから、チーム活動をすると効率的と思う。
 - ・ 留守のときでも活動が途切れない
 - ・ 一人では判断に迷う時でも数人でワイワイやっていると良い考えが出る事が多い。

問4. コーディネータネットワークのメルマガ（メールマガジン）で取り上げて欲しいテーマがありましたら、お書きください。

- ・ 成功例、失敗例 その原因と対応策について（具体例で）
- ・ 成功事例（成功の要因分析を含む）など
- ・ 成功事例より、失敗事例とその原因、理由などに言及されたものが有効と思う。
- ・ 産学官連携の成功例、失敗例
- ・ 販路拡大の成功例紹介と成功したポイントの解説
- ・ 小さなことでもいいから成功事例を公表する。
- ・ 今迄メルマガを見ていないが、特に中小企業に関する産学官連携のサクセスストーリーが紹介されればと思う。
- ・ 産総研発ベンチャー、大学発ベンチャー企業（又はその卵）の紹介
- ・ 産学官連携事業としての研究の紹介
- ・ マッチングにおける目利きのポイント
- ・ 競争的資金獲得のポイント
- ・ 企業の望むコーディネータとは何か。
- ・ 中小企業の産学官への取組み方。
- ・ コーディネータ活動の成果とは？

成果とは誰にとっての成果でしょうか。シーズを提供する研究者，モノやサービスを提供する企業者，それを利用する生活者・利用者や社会，コーディネータ自身や活動を進める機関・団体。

- ・ あるコーディネータの 1 週間を追ったドキュメントのようなもの(他の方がどのような活動を具体的にやっているかを知りたい)。
- ・ 国、団体などで新設するコーディネータあるいは類似の仕組みについての情報提供
- ・ 「顔」、つまりその人の出自、経験、人柄など。
- ・ コーディネータのキャリア形成
- ・ 他地域での状況などを紹介してはどうか。
- ・ 交流会
- ・ NPO の役割について

問 5 . コーディネータネットワークのメルマガ (メールマガジン) の購読を希望なさいますか ?

希望する : 22 名、希望しない : 9 名

問 6 . 本会議についてのご意見・ご感想をお聞かせください。

基調講演に関して

- ・ TLO (キャンパスクリエイト) の実情の話は参考になった。詳しい現実の話が参考になることが多い。
- ・ 難しいと云われている TLO を実際に経営しておられる安田社長の話の中に、失敗した場合は誠心誠意謝り、次に挽回する、と云われたのが特に印象に残った。

パネルディスカッションについて

- ・ パネラーの職種が多様で意見が咬み合わなかった。コーディネータの失敗談など生々しい話が欲しかった。
- ・ ニーズを必要としている企業サイドのパネラーを出して欲しかった。
- ・ 産学官についての連携とつくばにおけるコーディネータの役割が理解でき、有意義なシンポジウムでした。とりわけ各コーディネータ諸氏の考えが、その組織や対象地域にかなり依存することが理解できたことは有意義でした。コーディネータと一括りにせず、この考えの違いを理解したうえで、産官学のうち産の立場である当方との接点が見出せればと考えております。
- ・ コーディネータと IM の仕事は、パネラーの石塚さんが言ったように微妙に違うかもしれませんが、ともに人と人、経営資源と経営資源を結びつけて新しいものを世に送り出す仕事として、シンポジウムでパネラーたちの話を聞き、自分でも新しい自信となったような気がします。つくばはベンチャーの先進地域だと思っておりますので、今後も新しい情報等お送りいただければありがたいです。
- ・ パネルディスカッションはよくやられる形ではあるが、表面的な話が多く、得るものは少ないと言ったのが感想です。

シンポジウム全体を通して

- ・ コーディネータを組織の枠に組み入れようとする固定観念から抜け出せない。また、そのことに気がついていない状況が垣間見えた。実に興味があった。
- ・ いろいろな考え方の人がいることで安心しました。皆が同じ考え方をしていたら解決できないこと

が出てきたとき問題である。ただしチームワークは重要なので、1度ベクトルが決まったらそれに合わせるべきだと考える。

- ・ 企業側の意見も聞いてみたかった。
- ・ 大変に熱意のある多く方の参加で、心強く思いました。
- ・ 路線が引かれ、その上を走っている感じを受けた。内容が多かった所為もあるが。出席者の意見がもう少し出る、あるいは出やすい工夫が必要と思われた。
- ・ 有るべき姿が見えなかった。特に、電通大 TLO の損益への拘りが、あまりに強調されていた
- ・ 産業界に身を置く立場での感想ですが、最近弊社も R&D については従来の基礎研究から事業化研究までひとかかえの体制を見直しています。たとえば基礎研究については可能な限りパートナーを探し国内外の研究機関と包括的な研究契約に基づいた積極的な取りくみを始めています。一方コーディネータのコスト意識やコスト評価のお話が何度かでしたが、ビジネスに結びつけるためには多くの障壁があり、特に産との更なる連携はそのためにも必須かと思えます。弊社は「顧客満足」との視点・方針にたち、事業・R&D を展開しようとしています。本日のテーマと違うためかと思えますが、シンポジウムからはあまり顧客（産）の顔が感じ取れなかったというのが感想です。機会があれば、是非今後も情報交換させていただきたく希望しますのでよろしく願いいたします。ありがとうございました。
- ・ 年 2~4 回、県内で今回のようなシンポジウムを開催して欲しい。
- ・ 15 月からコーディネータの末席に加えていただいたので、その基本スタンスと今後の対応を熟慮する良い機会となった。
- ・ コーディネータは、その名称をもつ者だけでなく、機能を担うべき機関の職員、たとえば商工団体や市町村職員も、もっとこういう会合に積極的に参加すべきだと思いました。
- ・ ネットワークに関しては、地域に根ざした所から取り組むべきではないかと思えます。今回の会議の動議付けが良く理解できませんでした。
- ・ コーディネータの必要性と重要性について再認識しました。ありがとうございました。
- ・

会場・運営面について

- ・ 官、学の方が多く、民の方が少ないように感じた。民間の方の参加が増えるとよいと思う。
- ・ 錚々たる方々が出席され、正論を語られて大変有意義であったと思いますが、座席にテーブルもなく、左右も非常に窮屈で、メモもままならない点が残念でした。
- ・ 会場に活気があった。
- ・ 内容としては大変満足できましたが、シンポジウムの運営上（時間配分や、意見の吸い上げ方など）には多くの改善が必要だと感じました。
- ・ もっとフロアとの間で活発なやり取りができるような時間配分をすべきと思う。今後の継続活動を期待します。
- ・ 15 日午前中に産総研、筑波大学の研究室見学に参加させていただき、ありがとうございました。今後もこのような見学会があれば参加させて下さい。